

★平成23年度〔児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験〕

「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」 in 和歌山市 実施レポート

【コーディネート団体名】 NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク(JCDN)

【都道府県・政令指定都市名】 和歌山県和歌山市

*地元コーディネーター： 和歌山市民会館（和歌山県和歌山市伝法橋南ノ丁7番地）

<実施日・学校・講師>

10/31-11/2 講師:セレノグラフィカ in 和歌山市立山東小学校

11/28-30 講師:砂連尾理 in 和歌山市立紀伊小学校

講師:新井英夫 in 和歌山市立福島小学校

<実施内容>

各学校ともに、1日90分(連続2時限)×3日間、学校の授業の中でダンスのWSを行った。

■和歌山市立山東小学校

講師:セレノグラフィカ(隅地茉歩・阿比留修一)

対象:4年生34人

ワークショップの内容

1日目 ウォーミングアップ→からだを使った遊び(ゲーム感覚で自分の身体で表現することを楽しむ)

→グループごとに見せあいっこ→1日の振り返り

2日目 ウォーミングアップ→より深いクリエーション(一人づつ違うダンスを創る「ネームダンス」など)→見せあいっこ→1日の振り返り

3日目 ウォーミングアップ→1日目と2日目にやったことを全部つなげて、ひとつのダンスにするリハーサル。講師が構成する。授業の最後に、親御さんを観客に招いて発表。



授業対象は4年生34人。担任の先生からきちんと愛情をそそがれて育っているのが良く分かる、元気はつらつな子供達ばかりの素晴らしいクラス。チームワークがあり、2日目から諸事情で来れなくなった生徒の代わりに、別の何人かの生徒がフォローして踊りを考えてくれたり、3日目に生徒から歌のプレゼントを受けたり(セレノさんも初めてとのこと!)、こんなこともあるんだ、という素晴らしい出会いがいくつもあった。

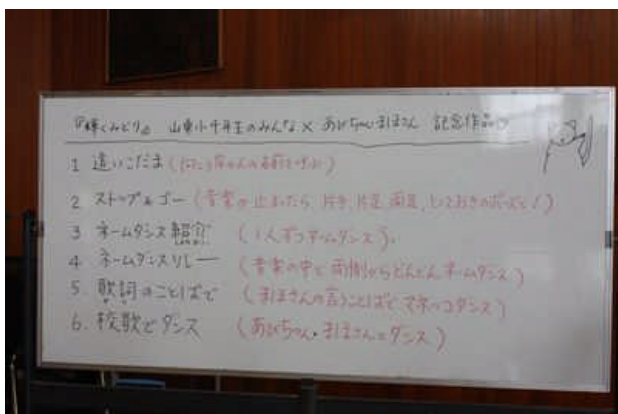
セレノさんからは、みんながこの素材(ダンスの方法)で後々も使えるようにと音楽の素材CDやワークの方法をメモに残していかれた。様々な好条件がそろい、非常に理想的な授業になった。

ちなみに、後日談があり、山東小学校では、ちょうど次の日曜日に授業参観があり、そこでももう一度、この授業で作ったダンスを発表したそうだ。2回目の発表とあって、子ども達はダンスに磨きをかけ、前回の授業では講師のセレノさんが踊ったパートも自分たちで工夫して踊ったとか。最後に特別ゲストとしてセレノさんが(子どもたちに内緒で)登場し、場はとても盛り上がったそうだ。以後、先生とセレノさんは今も交流が続いている。

<3日目 発表の日の様子>



▼1日目と2日目に行ったワークの内容を、担任の先生が掲示物にしてくださいました。ポイントが押さえてあって素晴らしいものでした。



▼3日間のまとめとして発表するダンスについて、どの順番で何をするか、という構成をお知らせ。

▼音楽が止んだらピタッと動きを止める、「ストップ&ゴー」の練習。



▼自分の名前から動きを創る「ネームダンス」と、その発展形の「ネームダンスリレー」を練習中。

▼続いて、校歌の歌詞からいくつかの言葉をピックアップ、カードに書き、2人1組のグループごとに1枚渡す。



▼2人1組で踊る「まねっこダンス(鏡のダンス)」。これと、歌詞カードを組み合わせて...

▼自分が引いたカードの歌詞(言葉)がアナウンスされたら踊りを始める、というルールで、全員のみねっこダンスが構成される。



▼最後に、実際の校歌(前日、みんなに歌ってもらって録音したもの)を流して、茉歩さん・阿比留さんと踊る。決めポーズで終了！



▼セレノさんから子ども達へのプレゼント。ワークの方法が書かれたものと、実際に発表で使った音源が入ったCD。



▼毎日、給食を一緒に食べて交流もしました。最終日には、生徒から、自分たちで考えて練習したという、手話つきの歌のプレゼント！
「ありがとう。また会いましょう。」という歌でした。

<担任の北山先生からのメッセージ> *終了直後にお聞きした感想

子供たちは、ダンスといえば運動会の振付のようなものしか知らず、やりたいかどうかは関係なく、決まった振りを踊るもの、それがダンスだと思っていた。今回はいい意味でそれが崩された。

これまで、音楽や言葉では、「伝える・表現する」ことをしていたが、自分の身体を使っでの表現はしたことがなかった。

セレノさんの言葉で印象的だったのは、「自分の身体と相手の身体を大事にすれば、何を表現してもいいよ」ということ。

体育の中にも表現の領域はあるけれども、子供達らしい良さを引き出せたらいいなと思うものの、どうやって子供に投げかけたらいいのか、迷っていた。こちらの投げかけによっては余計に固まってしまうりする。なので、例えば「好きに動いてピタッと止まる」時の動きが表現になるなど、教えてもらったことは、自分にとっても勉強になった。子供たちが、今、自分の持てる力ががんばることが大事で、あー、こういう方法があったのか、と気づかされた。

言葉ではなく、身体で感じあうこと、触れてみて伝わるのがたくさんあった。人との出会いで生まれるものは、いっぱいあると思う。いろんな子供、いろんな受け止め方があるし、その中でこれは大事というものを、子供自身が選択していけばよいと思う。そういう意味で、その道のプロに出会うのは、とても大事なことだ。

今回、担任でも親でもない、初めて出会った人と作るという、私にはできない時間をいただいたことに、本当に感謝している。



■和歌山市立福島小学校

アーティスト:新井英夫

アシスタント:さとういく

対象:3年生 19人

3年生全員で18人という小規模の学校。行く前は18人だから、そんなに問題はないだろうと甘く考えていたら、そうではなかった。

なかなかやんちゃで落ち着かない男の子が、4・5人いる。数は少ないが、全体の4分の1。何かを説明しようとしてもすぐに遮断されてしまう。

先生もアシストしてくれるのだけど。あまりそちらに気を取られてしまうと、全体が進まなくなる。初日は、そのジレンマと戦いながら、新井さんが、「人が話しているときは、ちゃんと静かに聞く、そしてちゃんと見る！！」と何度も繰り返しながら、進んだ。一緒に給食を食べて、また明日と帰る。終わって、これはどのような方法でいこうかと、作戦を練る。

2日目。すこし様子が変わってきた。すこし集中力が全体的に生まれてくる。給食後、そのやんちゃな子どもたちが、新井さんに、一緒にサッカーをやろう、と誘った。新井さんが、よっしゃーと走り出す。

休憩後、新井さんいわく「あの一番やんちゃな子が、サッカーでは、全体をケアして引っ張っていく存在だった。まとめ役だったんだ」と聞き、みんな驚く。

最終の3日目は、4時間目に、保護者と、他の学年に見せる事になっていた。その前の1時間(実質45分)で、まとめられるのか、やはり初日に予定の半分ぐらいしかいけなかったことが、ここに影響してきた。

しかし3日目で子どもたちの様子が変わった。つぎつぎに出される新井さんのきっかけや指示に、みごとに集中して、反応していくのだ。それも、これ誰かきっかけを出せるかな、という、ハイッハイッと次々に手が挙がる。よくぞこの短時間にリハーサル最後までいくことが出来た。

リハーサルが終わるとまもなく、つぎつぎに父兄方々が入ってくる。そして事前には4年生だけが見に来るといっていたのが、6年生、1年生と、校長先生の判断で、3学年の子どもたちに見守られながらの発表となった。緊張しながらも、自分で作った動きやダンスが、繰り広げられる。観ている子どもたちも一言もしゃべらずに緊張した面持ちで見ている。途中で、奥のほうにみんなが固まり始めたから、もっともっと広がれーと心で念じたら、みごとにスペースいっぱいになり、最後の元気なダンスを見せてくれた。拍手喝さい。

すごいねー、3日間でこんなに変わるのだねー。やはりあのサッカーに新井さんが参加したのが大きかったね。とみんなで話す。

最後の給食を食べる。すっかりもう仲間だ。子どもも大人も関係なく、ひとつ終わった達成感があるのと同時に、子どもたちは、時間になり、水曜日なので、帰っていく。また来てね。またダンスとサッカーしようね。

先生が言っていた。子どもたちの新しい顔が見えたと。定期的に来たら、もっといろんなことができるだろうと思った。



■和歌山市立紀伊小学校

アーティスト:砂連尾理 アシスタント:田中幸恵、大畑省吾(音楽)

対象:6年生 各 35人 *2 クラス希望があったが人数が多いため、1 クラス 2 時限づつ連続で実施

ワークショップの内容 *2 クラスともに同内容

1 日目 ウォーミングアップ→音に合わせて体の一部を動かしてみる→見せ合いっこ→1 日の振り返り

2日目 ウォーミングアップ→からだの一部を使って、自分の名前を創り動きにする→5つのグループに分かれて、一人づつ創った動きをグループ人数分つなげて、一連のムーブメント＝ダンスにしてみる。講師・補助者・地元コーディネーター・担任の先生がそれぞれのグループについて、子どもたちのファシリテートを行う。

3 日目 ウォーミングアップ→各グループとも、2 日目のダンスを発表できるところまで稽古。グループごとに子ども自身が音楽をリクエストして決め、デハケを決め、バイチを決めて、全体を通してスムーズに踊れるよう、繰り返し練習。→1 年生約 50 名を観客に招いて、発表。



初日、子ども達の様子が、どことなくダラダラとして覇気が無く、集まって開始できるまで15分もかかりました。身体を動かし始めて1分も経たない内に、ワークを中断して、砂連尾さんが子ども達に話をするに。今日、このダンスの授業でどういことを生徒達に学ばせたいのか、どんな人が何を教えに来てくれるのか、という事前情報が伝わってなかったのか、生徒自身が何か流れ作業のようにこのWSを過ごそうとしているようでした。

しかし、2日目からはだいぶ様子が変わり、個人差はあるものの、ある程度集中して能動的に臨もうとする子が増え、その日のうちにグループわけを行って、最終日に踊るダンスの基礎部分を作ることができました。

たぶん、子ども達にとっては普段あまり言われないようなことや質問を、初日に砂連尾さんから投げかけられて、さぞびっくりしたのだらうと思います。一人一人は素直で明るく元気のいい子どもたちだったのですが、やはりクラスの中でも強い子に弱い子が物を言えないような雰囲気があるらしく、そういった日常のパワーバランスがそのまま、現れていた様子でした。

2日目のグループ分け以降は、振付のほかにもデハケからバイチ、フォーメーション、などを自分たちで考え、音楽をどのシーンで何の音を出したいかを音楽家の大畑君にリクエスト、どんどん発表に向けて集中度が増していき、最後はきちんと全員が踊りきりました。

先生によると、一人一人の子と向き合いたいけれども、ゆとりのない教育指導要領に追われて、日々の授業をこなすので精一杯で、こういうほんわかできる時間が、唯一子ども達を自由にさせてあげられる場なのだということでした。

そのお話を伺って、私たちからは、この3日間で行ったことを先生なりにアレンジして、ぜひ1日30分でもいいから身体を自由に動かしてみてくださいね、というお話をして学校を後にしました。

教育現場の厳しさについては、想像しえない部分もあるものの、こうして3日間の授業を経て、先生ともコミュニケーションを取ることができたのは、大きな成果でした。



事業後、担任の先生方に実施したアンケート 回答

※全回答数:5枚 (山東小1/福島小1/紀伊小3 いずれも担任教諭が回答)

Q. この事業に応募した動機やきっかけをお聞かせ下さい。

- ・ 学年が34人で応募の人数に合っていたこと。案内を見て、楽しそうだと思い、子どもたちに、教室だけでする授業だけでなく、いろんな経験をさせたいと思ったから。(山東小)
- ・ 募集要項を見て、おもしろそう、と思ったのがきっかけ。学校の子供達に表現する力が乏しいと感じていたため、このワークショップで少しでも変わるきっかけができればと思い応募した。(福島小)
- ・ 校長会での呼びかけから、6年生に声がかかる。1学期に“よさこい”に挑戦し、総合的な活動の時間として「表現」をテーマに取り扱っていたので、表現の一つの形として、応募してみようと考えた。(紀伊小)

Q. この事業を実施してどうでしたか？ (先生ご自身について)

- ・ 新学習指導要領の改訂にともない、体育科の体ほぐしの運動につながる所もあり、プロの方に教えていただくという、良い機会をいただきました。私も、一緒に参加させていただき、楽しませていただきました。(山東小)
- ・ 表現ダンス、というと、はずかしがったり、照れたりする子がいると思っていたのに、こんなにのびのびと表現できるとは、見ていてうれしくなりました。発表会をする、という目標を持ってできたのも良かったです。私自身、大変勉強になりました。(福島小)
- ・ 一つのものをつくりあげて、友達と交流しあうことで、まとまりが生まれたように思う。学習以外のことで何かに取り組むことは時間が限られた中、いろいろとむずかしく(日々追われ)、やってあげられないことが多いが、機会を見つけて友達と交流する、つくりあげるそんな時間をもっていかなければならないと思った。(紀伊小)
- ・ 子どもたちがいかに教師によって動かされているのかよくわかった。自分達で考えるということを普段からもっと取り入れなくてはいけないと思った。(紀伊小)
- ・ 子どもたちのあらたな一面がみれてとってもよかったです。(紀伊小)

Q. この事業を実施してどうでしたか？ (児童の様子について)

- ・ 運動会のダンスのように、決まった振付を覚えるのではなく、好きなように出来るのが楽しかった、と感想をもつ子が多かったです。ストップ&ゴーや、鏡の世界も気に入ったようで、休憩時間にもやって遊んでいる姿が見かけられます。写真を撮る時も楽しんでポーズを考えるなど、授業後も、ダンス体験をしたことが広がっています。(山東小)

- ・ 初めはとまどう子も多かったものの、だんだん慣れてくると、心の底から楽しんでいる様子が伝わってきた。のびのびとダンスをすることに抵抗がなくなり、心も体もほぐれているようだった。とても心の弾む3日間だったようです。毎日やりたいと言うほど。(福島小)
- ・ 友達どうしの中で、より良いものをつくりあげようと意見をいっあう中で友達のいろいろな側面を見つかることができ、仲が深まった。1年生に見てもらったことで、自信もつき、達成感や満足感を味わえたと思う。姿勢を意識する子もふえた。こんな表現もあるんだと学べた。(紀伊小)
- ・ 初めは動けず、オロオロしていたが、だんだん慣れてきて顔つきが変わったのが印象的だった。グループでの話し合いも前向きなものに変わった。(紀伊小)
- ・ あんなに楽しそうにダンスを創造するとは思っていなかったのよかったです。(紀伊小)

Q. アーティスト、又は和歌山市民会館・JCDN への御意見・御感想をお書き下さい。

- ・ 今回、ダンスを通して教えていただいたこと(体を動かすことの気持ち良さ、相手にふれて体温を感じて、息を合わせることなど)は、ダンスだけでなく、生活すべてのことにつながるのだと思います。そんな授業に出会えたこと、とても感謝しています。ありがとうございました。(山東小)
- ・ 子ども達が真剣に楽しめる授業、普段体験することが出来ない授業、とても素敵な3日間でした。ありがとうございました。(福島小)
- ・ 3日間ありがとうございました。担任以外の先生と触れあうことはとてもよい刺激になるのだなと思いました。これからも、子ども目線での活動をよろしく願います。(紀伊小)

山東小学校 セレノグラフィの二人へ向けて

● まほさん、あびちゃんへ

・1日目にまほさん、あびちゃんにであったときは、すごくびっくりしました。まほさんが考えてくれた、かたまってとけていくアイスがたのしかったです。またいろいろ楽しいことやおもしろいことをたくさん教えてください。それでまたいっしょにダンスをおどりたいです。

・まほさん、わたしは1日休んでしまったけど、みんなの話をきいてたら、だんだんとまほさんと、あびちゃんの、やってたダンスがわかってくる気がしました。おもしろかったのは、まほさんがかたまってうごかなくなったところです。

・ダンス体験ワークショップって何かなあと思っていました。けれども、まほさんたちのダンスは運動会のダンスとはちがって、ひょうげんするダンスということがわかりました。

・わたしはあまりネームダンスみたいなのはしないのではずかしかったです。でもだんだん楽しくなってきたので楽しかったです。

・ぼくたちがあまりけいけんしたことのないダンスを、一生けん命教えてくれてありがとうございました。とてもおもしろいダンスで、楽しかったです。

・ダンスってむずかしいのかなー??? でもあびちゃんとまほさんのダンスを見ていきがぴったりだったのでとてもきれいかったです。

・プロのダンサーさんを初めて見てすごくカッコいいなと思いました。

・めっちゃ楽しかったです。本当ならもっともっというほしかったんですが・・・。

・1日目体育館に来た時、見たことのないふしぎなダンスをしていてびっくりしました。ダンスをおしえてくれて、ありがとうございました。

・3日間いっぱいした中で一番好きなのは、2人ぐみのガラスです。まねをするってむずかしかったけど楽しかったです。

・いろいろなスローや、たいそうをおしえてくれたのしかったです。はじめてネームダンスをしたのしかったです。アイスみたいにこおるのがたのしかったです。

紀伊小学校 児童感想文(日記) より

●今日はダンスの最終日！

月・火・水ってやってきて最初は本当に意味がわからなかったけど、言葉にならない、形にできない何かを得られた気がした。

1日目:最初は今までみたいに「こう、おどって～！！」みたいな？！ ふりつけのあるダンスなのかなあ？と思ってたけど、それよりかんたんで、でも、難しいダンスだった。わっか(円)になって「手」だけで、本当にコミュニケーションがとれるのかなあ？ となぞだったけど、何かが伝わってきてよかったなあ～、と思った。

2日目:またまたわっかになって、準備体操をしてからみんなで自分の名前を身体の色々な部分で書いたっ！！ ちょっとダンスっぽくなった気がした。

それからグループになってダンスを練習した。どんどんやってるうちに楽しくなってきた。他のグループのも見えて、フォーメーションがちゃんと決まっていたりしてスゴいなあ～！！と思った。レベルが違いすぎてビックリしたけど、自分も楽しかったから、よかった！

3日目:最終日は、(6年)2組と合同でした。1～4時間目まで使って、音楽であったり、はじまりとか、終わりとか、細かいところまで自分達で決めて、スゴく楽しかった！ ちょっとはずかしかったけど…。それぞれのチームに個性があって面白かった！

この3日間、本当に、スゴイものを砂連尾さん達に教わったと思います。

今まで猫背がちだった私も、これからは、胸をはって自信を持って、笑顔を忘れずに生きていこうと思った。そうしたら、自然と明るくなると思うし、人もたくさん寄ってくるんじゃないか？と本気で思った。みなさん、ありがとうございました。

●初めて教えてもらった時、これはダンスなのか？ と思った。でもやっけて行くうちに楽しくなってきた、またやりたいと思うようになった。

～良かったところ～

私は、ダンスはもっとかっこいいものだと思っていた。でも、みんなで考えたりして、「創作」ダンスで楽しかった。しかも、1年生の前で発表したのだから、なんかスッキリしたし、なんとなく成長した気がする。ダンスは、心のダンスだったけど、楽しかったしおもしろかった。

この砂連尾さんとのダンスは、今までおどった中で、一番やりやすかった。わざわざ、京都から来てくれた人もいたので、ビックリした。

また、どこかで、砂連尾さんたちと会えたら話したいです。本当に楽しかった～！

●ダンスを3日間やって思った事

1 日目、いきなり来て何をしてるのかぜんぜん分からなくて少し混乱していました。「これを自分がやるの!？」と、驚きましたが、砂連尾さんたちのマネをしてがんばりました。

2 日目は、少し慣れました。グループをきめて、考えて発表するのが楽しかったです。でも、少しはずかしかったです。

3 日目、2 日目よりは自分が発表のなかで「これがやりたい」ということを発言できました。(同じ)グループの子もいい案をいっぱい出してきて、やりやすかったです。1 年生の前で発表するのは正直イヤだなと思っていました。失敗しないか心配だったけど、フツーに成功したのでよかったです。

この3日間やってきて、少し変わったなと自分でも思った事は、少し姿勢がよくなったかなと思いました。姿勢をこれからも意識していこうかなと思います。

●ぼく、砂連尾さんの踊りはなんだかわからないなあと思っていました。でも踊っていると、とっても楽しいことがわかってきました。いろんな手の動きや、寝ころがって足を動かしたり、いろいろな動きを教えてくれました。そしてその踊りで人のきもちを感じたりもしました。姿勢をたたくしたり。

1年生にみせているとき(発表の時)に、決められた位置に立ち練習したから、成功して、とってもよかったですと思います。もしどこかであえたら、またいっしょにやってみたいです。3日間とってもたのしかったです。

●1 日目、砂連尾さんたちがやってきた。ぜんぜんダンスをやりそうな人たちではなかったけれど、やさしそうで体がやわらかそうな感じがした。

まず、おしくらまんじゅうをやって楽しかったけれど、どうしてやるかはあまりわからなかった。次に音楽に合わせて手を動かすということをしたけど、はずかしくてあまり上手にはできなかった。楽しかったけど、とても不思議な感じがした。

2 日目は、体のどこかで自分の名前を書くというものだった。それがどうダンスにつながるかはわからなかったけれど、やってみた。でも1日目と同じくはずかしかった。

1・2・3・4 グループに分かれてチームをきめた。そしてダンスの構成を考えた。でもあまりいいのが浮かばず、ぱっとしなかった。

いよいよ最後の日がやってきた。こんどは(6年)1組、2組、同じに(合同で)やることになった。同じにやることでははずかしさが増した。

みんなでもた考えだして、だんだんと時間がたちリハーサルが来た。そしてみんな(他のグループ)のを見ていると、よく考えているなと思った。一年生が入ってきて本番が始まった。

はじめのときは、意味がわからず楽しくなかった。けど、ダンスが完成してきたときは楽しかった。これからもまたやってみたい。